

1 麦類の栽培について

本年産は播種以降、平年に比べて気温は高く、降水量は平年並みに推移しました。11月18日に播種されたビール大麦の莖数は平年より多く、莖立期3月1日（平年：3月7日）と早まりました。気象庁季節予報（2月20日発表）によると、今後の気温は「平年並」または「高い」確率40%、降水量は「平年並」の確率40%の見込みのため、出穂期は平年（4月5日）より早まる可能性があります。明きよの点検・補修や赤かび病防除を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

① 排水対策

登熟期の湿害は根の活性を落とし、粒の充実不足を招きます。

- ・圃場の排水溝の溝さらいをしましょう。
- ・まだ設置していない圃場は、周囲に排水溝を掘りましょう。
- ・排水口は排水溝よりも低く掘り下げて、圃場外の排水路につなぎましょう。

② 赤かび病防除

赤かび病は出穂期以降に気温が高く、降雨が続くと発生の可能性が高くなります。また、不稔粒発生・登熟期の連続降雨等は発生を助長する恐れがあります。赤かび病が発生すると出荷できなくなるため、必ず薬剤散布を行いましょう。

麦種	防除適期	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨など)
二条大麦 (ビール、もち絹香)	穂揃い期7～10日後	1回目の7～10日後に2回目散布
小麦	1回目:開花始め(出穂期の7日後) 2回目:1回目散布の20日後	3回目散布

⚠ 不稔の発生を助長する主な気象条件

- ・出穂期8～10日前の低温（ -1°C ～ -1.5°C に3～4時間遭遇）
- ・出穂期前後の降霜
- ・出穂期前後に 25°C 以上の高温に遭遇

2 水稻の栽培について

●未消毒種子を購入した場合は種子伝染性病害防除の為、種子消毒を必ず行いましょう。

【種子消毒薬剤の例】

3月7日時点の登録内容

農薬名	適用病害虫	希釈倍数	使用方法	使用回数
テクリードC フロアブル	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、ばか苗病、 いもち病、ごま葉枯病、苗立枯病(リゾープス菌)、 苗立枯病(トリコデルマ菌)	200倍	24時間 種子浸漬	1回
スミチオン乳剤	イネシンガレセンチュウ	1,000倍	6～72時間 浸漬	1回

※農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を確認して正しく使用して下さい。

【浸種の目安期間】

種子	浸種温度	浸種日数(積算温度)
消毒種子	10～15℃	一般品種、月の光:8～13日(積算温度120～130℃) 夢あおば:4～8日(積算温度60～80℃) ※最初の3日程度は水を交換しない。
未消毒種子		種子消毒実施後、一般品種、月の光:7～12日(積算温度100～120℃) 夢あおば:3～7日(積算温度40～70℃)

(裏面あり)

●播種量

	播種量(g/箱)	箱数(箱/10a)	育苗日数(日)	葉齢(枚)	草丈(cm)
稚苗	乾籾 130 催芽籾 170	20～23	20	2.2～2.5	12～13
半中苗	乾籾 100 催芽籾 130	24～30	25	3.1	13～15
中苗	乾籾 100 催芽籾 130	24～30	30	4.1	15～18

※箱数(最多)は、1株当たり植付本数が4本、栽植密度が坪当たり70株(㎡あたり21株)、安全率120%で計算

※コシヒカリ以外の品種(とちぎの星、にじのきらめき、あさひの夢、月の光、夢あおば)は大粒なので、播種量をとちぎの星・にじのきらめきで1～2割、あさひの夢・月の光で1割、夢あおばで2割程度増やす。

※葉齢は、鞘葉と不完全葉を除く枚数

安定栽培のためのポイント

- ・薄播き (1箱乾燥籾150g以下で、均一に播種)
- ・小苗植え (1株当たり平均3～5本で移植)
- ・20～22株/㎡ (約70株/坪) の栽植密度で移植

【令和5年産水稻において「にじのきらめき」の多収・低コスト栽培法の検証を行いました】

○結果要約

高窒素基肥一発肥料(BBファイト055)の使用により、病害発生や倒伏を回避しつつ多収・高品質を両立させることができ、コストも削減することができました。「にじのきらめき」は肥料反応性が高いことから、基肥のみの多肥栽培では過剰分げつの発生を招いてしまい、生育後半での窒素不足や紋枯病の発生、白未熟粒の発生によって収量と品質が低下する可能性があることが分かりました。

○試験内容(品種:にじのきらめき)

肥料名	三要素の成分(%)	窒素施肥量(kg/10a)		総窒素施肥量(kg/10a)	施用量(kg/10a)
		速効性	緩効性		
供試区 BBファイト055	30(15 (90(5)+110(5))+L80(5))-5-5 [※]	4.2	4.2	8.4	28
対照区 オール14	14-14-14	8.4	0	8.4	60

注) ()内は被覆窒素の成分で内数。 移植日:2023年6月15日。 施肥法:側条施肥。 前作:麦(ビール大麦)。

○収量及びコスト試算結果

	稈長 (cm)	穂数 (本/㎡)	一穂粒数	総粒数 (百粒/㎡)	精玄米重 (kg/10a)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	倒伏 程度	タンパク質 含有率 (%)	紋枯病 発病程度
供試区	78	367	88.3	324	565	80.3	22.5	1.0	7.3	1.0
対照区	83	479	79.8	382	543	64.1	21.2	2.8	8.0	2.0

注) 千粒重と精玄米重は、1.08mm篩選による。 水分15.0%換算。 倒伏程度は、0:無～5:甚の6段階。 発病程度は、0:無～4:甚の5段階。

	精玄米重 (kg/10a)	検査等級 (等)	粗収益 (円/10a)	肥料代金 (円/10a)	農業所得 (円/10a)	対照区との所得差 (円/10a)	肥料1kgあたりの精玄米重 (kg/10a)
供試区	565	1	113,012	7,073	105,939	13,414	20.2
対照区	543	2	103,200	10,674	92,526	-	9.1